

# 岡崎城だより

No. 8  
2025. 5



## 令和6年度実施事業の成果

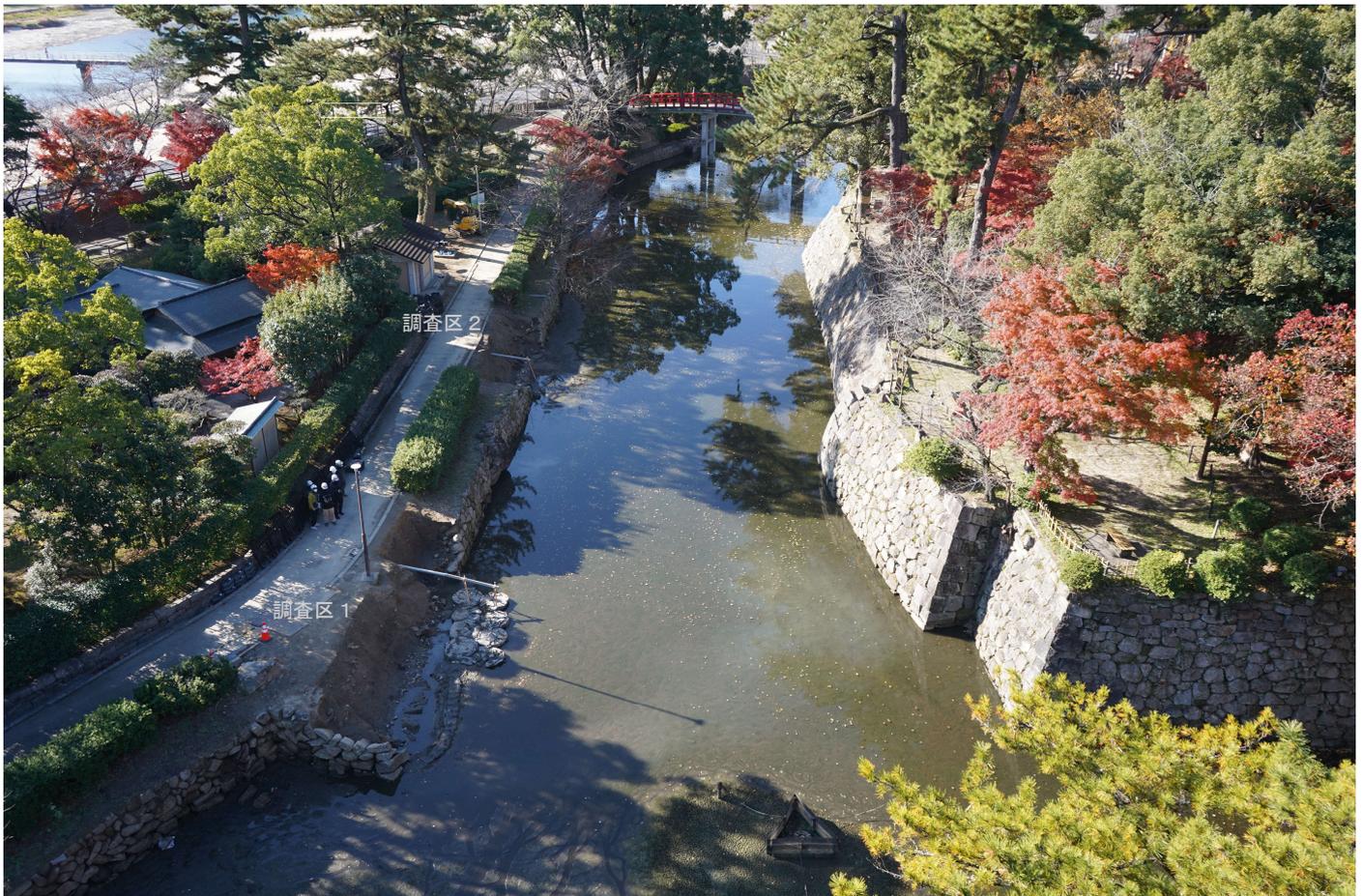


写真1 龍城堀発掘調査全景(写真左側) 北東からドローン撮影

### I. はじめに

『岡崎城跡整備基本計画-平成 28 年度改訂版-』(H29.3)の策定から8年目の令和6年度は、龍城堀の発掘調査をはじめ、様々な事業を実施しました。

近年、豪雨や地震による石垣への悪影響が懸念されます。石垣の崩落は私たちの財産である歴史遺産の破壊だけでなく、岡崎城公園をご利用される皆様の安全を損なう恐れがあります。そのため、令和6年度は例年実施している石垣保存事業のほかに、危険と判断される石垣についても様々な対策を行いました。

今回は、令和6年度に岡崎城内で実施した事業について、ご紹介します。



図1 岡崎城郭図と令和6年度事業地点

## Ⅱ. 調査事業

### 龍城堀発掘調査

龍城堀は本丸堀とも呼ばれ、その名のとおり本丸を囲む水堀です。江戸時代中期(1645～1762)に堀の外周に石垣が築かれたものと考えられます。

堀の本丸側は幾重に折れ曲がる複雑な形状をしており、現在でも対岸から眺めると、非常に大きく立体的な石垣の構造を楽しむことができます(図2の緑線)。



図2 水野家時代(1645～1762)「岡崎城図」から抜粋

発掘調査を実施したのは、この対岸、図2の調査区1・2の範囲です。令和5年4月9日、龍城堀南面石垣の一部が崩落しました(調査区1)。その際に周囲の石垣の状態を確認したところ、崩落個所のすぐそばで石垣の背部の土砂が陥没していることも確認されました(調査区2)。



写真2 令和5年 調査区1における石垣崩落時の様子

今回の発掘調査は、石垣修復方法の検討材料として石垣の内外の状態を明らかにし、崩落や陥没が生じた原因を究明することが目的です。

調査期間は令和6年11月から12月にかけて、調査区2か所の合計58.0㎡を発掘調査しました。

### 調査成果

#### (1) 地層の確認

当初は江戸時代に築かれた石垣と考えていましたが、調査を行うと想定外の結果になりました。

本来、石垣の背後は前面に見えている大きな石(築石)を支える栗石が敷き詰められているはずですが、栗石が確認できたのは現在の地表面から2mほど掘り下げたところでした。この間は土砂で埋められていて、その中からはお菓子の包装ビニールやコンクリートなどの現代製品が発見されました。下部の約50cmは古い遺物を含む層がありました。このことから、少なくとも地表から1.5mの深さまでは、近現代に埋められた層だったのです。そして、石垣の背部が近現代であるなら、その前面に積み重ねられた築石も近現代に積み直されたものと考えられます。



写真3 調査区1壁面の地層

地表面下2mで発見された栗石は、岡崎城内の他の石垣に見られる栗石の大きさ、締め固められ方によく似ています。江戸時代の石垣がそのまま残っている可能性が十分に考えられます。

#### (2) 築石自体の年代

上部の石垣も築石自体は古いものです。取り外した石を1石1石調べたところ、江戸時代に用いられた「刻印」※1や、「矢穴」※2が複数見つかったのです。このことから、石自体は江戸時代に切り出された物と分かりました。

※1 刻印: 石工集団などが石に刻んだ印。

※2 矢穴: 石を割る際、「矢」という金属の棒をいくつも石に打ち込んでヒビを入れ、割る。その時に出来る痕跡。

ちなみに、刻印は6種類が発見されました。△○□と言ったよく見かける記号の他に、「L」字形や「扇文」、「入」に似た文様までありました。「L」、「扇文」、「入」の3種は岡崎城内で初の発見例です。



写真4 発見された刻印石

### (3) 崩落・陥没の原因

先述のとおり、石垣の背部は本来、栗石をしっかりと締め固めて強固な支えとします。しかし、今回確認されたのは土砂でした。更に、木の根にほぐされ、雨水で土が緩くなることで、この地層にはたくさんの穴が開いていました。加えて、築石はコンクリートやレンガを後ろにはめ込んで積んだ状態でした。これらの状況から、石垣が非常に不安定になり、崩落や陥没につながったものと考えられます。

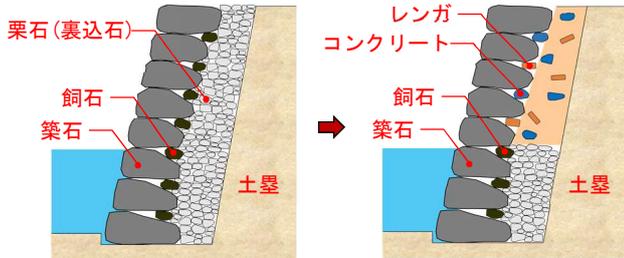


図3 本来の石垣の構造 実際の龍城堀南面の構造

発掘調査により、石垣の背部の状況と崩落・陥没の原因が分かりました。また、江戸時代の可能性が高い石垣を発見することができました。

今後は、再度石垣が崩落することが無いように、栗石でしっかりと締め固めた石垣の積み直しを行う予定です。

## Ⅲ. 石垣保存修理事業

### 1. 落石防止網設置工事

岡崎城内にある石垣は、構築からおおよそ400年が経過しています。長年の雨風等による影響は、石垣の割れや孕み出しと言った変状を生じさせています。

今回、点検により石垣の変状が確認された埋門と帯曲輪に、落石防止網を設置しました。落石防止網は、それ自体が石垣を強固にするものではありません。万が一落石した際、利用者がそこから逃げられるための時間を稼ぐことを目的としています。今後も危険度が高い石垣に随時設置していく予定です。



写真5 埋門



写真6 帯曲輪落石防止網設

### 2. 太鼓門発掘調査・修復工事

太鼓門は、二の丸と本丸をつなぐ箇所には造られた門です。絵図からは、東側に高麗門、西側に櫓門、そして土堀や堀により構成された枱形が描かれています。

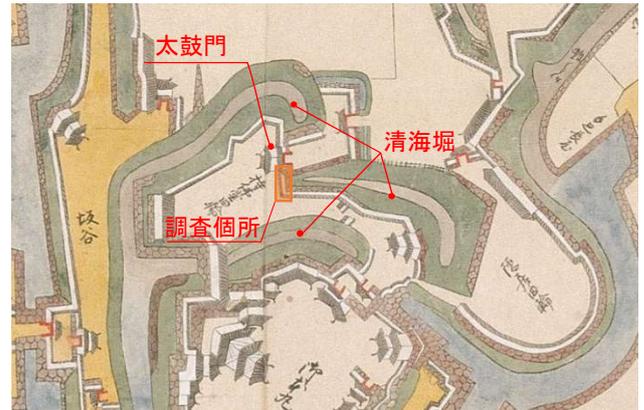


図4 水野家時代(1645~1762)「岡崎城図」から抜粋

今回、この櫓門の南側の石垣の一部で、築石が落ちそうになっていること、大型の間詰石が割れていることが確認されました。

石垣修復のため、まずは石垣の上面で発掘調査を行ったところ、調査区の南側は栗石が失われていることが確認されました。

この結果を受けて、石垣積み直しの際は、栗石が無い部分に栗石を補充し、しっかりと締め固めて修復を行いました。また、割れた石は接着し、間詰石を追加して補強しています。



写真7 変形した箇所



写真8 石垣背後の栗石



写真9 石垣修復の様子

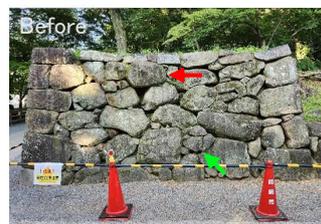


写真10 石垣修復前後(正面)

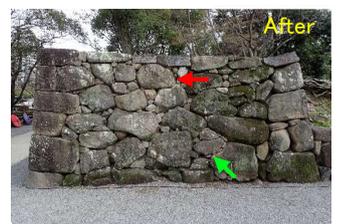
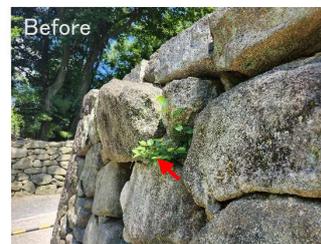


写真11 石垣修復前後(側面)



### 3. 石垣き損樹木伐採・測量等

『岡崎城跡石垣保存修理基本計画』(H30.3)に基づき、石垣をき損する樹木の伐採、石垣測量、石垣変位計測、石垣点検をおこないました。

#### (1) 石垣き損樹木伐採

石垣の天端や側面に生育し、石垣をき損するものは172本を数えます。これらの伐採を平成30年度に開始し、令和6年度は6本の伐採を行いました。これにより合計85本の伐採を終えました。

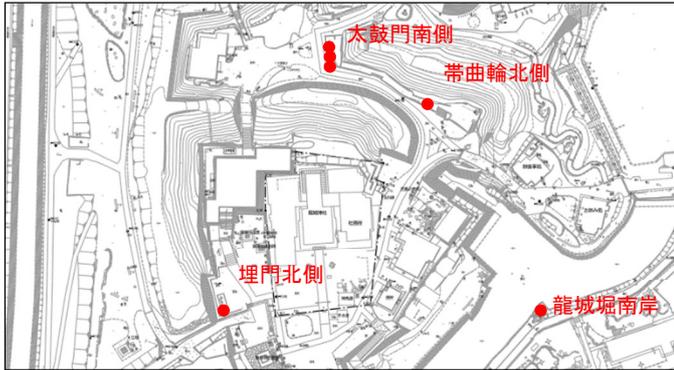


図5 令和6年度伐採箇所

伐採後、今回の伐採樹木の中で最も樹径が大きい、太鼓門南側石垣の松の年輪を数えて樹齢を計測しました。それにより、約120年前(明治30年頃)に生育を始めたものと判明しました。

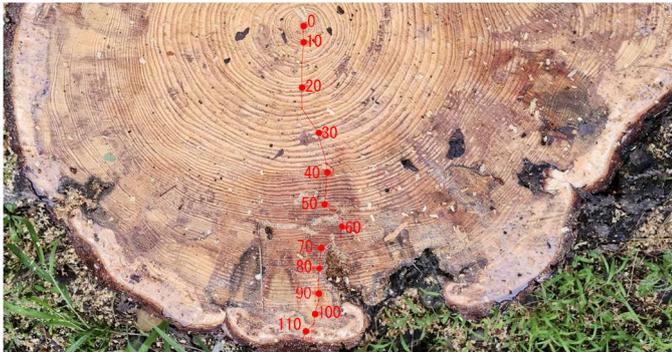


写真12 太鼓門南側の松

#### (2) 石垣計測

##### 石垣測量

岡崎城内の石垣は全部で224面あります。石垣測量図は、万が一石垣が崩落してしまった際の石垣修復に必要な基礎資料になります。

令和6年度は49面で石垣測量を行いました。平成29年度からこれまでに合計143面の測量を終えました。

##### 石垣変位計測

石垣は木の根による内側からの圧力や、気温・湿度など様々な要因で膨らんだり、石が落ちたりすることがあります。このようなリスクがある石垣に対し、レーザースキャンによる高精度の計測を行い、危険な変化が起こっていないかを年4回確認しています。計測は危険度A(現状で石垣の変

状が著しく、利用形態上の危険性が高い石垣)と判定された8か所で行いました。

結果として、計測時には石垣に大きな変状は見られませんでした。変位計測とは別で行っている石垣点検では太鼓門、帯曲輪、埋門の3箇所に<sup>へんじょう</sup>変状が確認されました。このことから、今年度は太鼓門の積み直し、帯曲輪と埋門の落石防止網設置を行いました。

今後はこの3か所は計測の対象外とする予定です。

##### 石垣点検

石垣点検は危険度A判定以外の石垣に対しても、機器(クラックゲージ、ガラス棒)を設置して、年に4回点検する作業です。石垣変位計測を補足する目的で、令和元年度から開始しました。埋門と帯曲輪、太鼓門においてガラス棒の割れが確認されました。



図6 岡崎城跡石垣計測箇所

#### ●岡崎城だよりのバックナンバー

巻数	発行年月	主なテーマ
No.1	2017年11月	岡崎城だより発行スタート！月見櫓の遺構を発見
No.2	2019年3月	天守台石垣の調査で、「三葉菱紋金箔瓦」大発見
No.3	2020年3月	清海堀の調査で、絵図に無い未知の石垣発見
No.4	2021年3月	坂谷曲輪の1次調査！菅生川端石垣の整備も実施
No.5	2022年4月	菅生川端石垣の整備完了！その矢先、南切通しの石垣が崩落
No.6	2024年6月	南切通しの石垣積直しに向けて発掘調査。そして積直し開始
No.7	2024年6月	坂谷曲輪の2次調査！門の基礎構造を大(体)解明！



※No. 1～5のQRコードは、No. 7に掲載しています。

#### 岡崎城だより No. 8

発行年月日 令和7年5月16日  
 編集・発行 〒444-8601  
 岡崎市十王町2-9  
 岡崎市教育委員会社会教育課  
 TEL: 0564-23-7270